
金の小野と銀の小野

STORM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金の小野と銀の小野

【Nコード】

N8755G

【作者名】

STORM

【あらすじ】

昔々の話、小野家の二一ト、金太（仮名）と銀太（仮名）が働くことになった。その時に起こった出来事。ちなみに職業は林業。

(前書き)

数年前の学校祭の時に強制的に劇をやらされることになりました。結局やりませんでした。が、そのときに作った台本を見つけたのでちよつと手を加えて小説として投稿してみました。これってファンフィクションにした方がいいのかなあ・・・。

昔々、森に二人の木こりがいました。

現代風にいえば林業者（個人経営）です。

まあ、名前は小野（仮名）ということにしておきましょう。

あ、二人いるんだった。

だったら片方は小野金太（仮名）、もう片方は小野銀太（仮名）で
いつか。

そして実は二人は兄弟って言う設定であつた。

実はまだ木こりですらない。

ある日、彼らのオヤジに金を渡され、

「てめーらしい加減働け、いつまでニートやってんだ。それで斧で
もかって林業でもやれ」
と言われました。

これが木こりになった理由でした。

さっそく金太と銀太は斧を買いに行きました。

「「斧ください」」

「それじゃあ、この「錆びた斧」と、「血塗られた斧」、そして「
執行人の大斧」、どれか選べ！値段は統一してやる！すべて死人の
遺品だから！」

「「執行人の大斧で」」

執行人の大斧

攻撃力1200

分類・大剣

切れ味・緑

二人はこれを購入しました。

二人は翌日から結構真面目に働き始めました。

ある日、いつもどおり低血圧でなかなか起きれない銀太をおいて金太は先に木を切りに行きました。

その日は泉の畔のそれなりの大きさの木を一本切ることにしました。執行人の大斧でたたきつけると、木は倒れました。

ですが、その勢いで執行人の大斧を飛ばしてしまい、泉に落ちました。

落ちる時の音は「ポチャン」でも「ボチャ」でもなく、「ズドーン」でした。

「オレの執行人の大斧がああああああ！あれ無駄にたけえんだぞ、対して強くもないくせに無駄にいい素材要求してきやがつて！！」

死んだハンターの遺品らしいですが。

金太が嘆いていると、池から神が出てきました。

「あなたが落としたのはこの金の斧ですか、銀の斧ですか？」

「いえ、私が落としたのは執行人の大斧です」

「そうですね、あなたは正直ものですね、この金の斧と銀の斧を差し上げましょう」

そう言つて金太に二つの斧を渡すと、泉の中に消えていきました。

「ちよ、執行人の大斧は！？」

最初はそう言っていました、金の斧と銀の斧があまりにも美しか

現代社会の人なんてそんなもんでしょ。

「マスメディアの影響だ」

マスメディアは凶悪です。

「関係なっ！？漫画とアニメでしょ！？それと映画でしょ！？」

銀太がツツコミを入れるが、銀太の存在は忘れ去られています。

「そんなことはどうでもいい。ハラワタ見せるやああああああああああああああああ！！」

「ぐぎゃああああああああああああああああ！！」

金太は死にました。

ハラワタを死神と銀太に見せて。

H A P P Y E N D

(後書き)

馬鹿ですね、私は。

こんな馬鹿が私の他にもいたと思えば呆れるだけです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8755g/>

金の小野と銀の小野

2010年12月11日02時12分発行